

# 勉誠出版

## 中古文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード: 5ea7a89cfa  
(期限: ~2023年7月31日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。  
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。  
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。  
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

### ●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。  
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: 5ea7a89cfa (期限: ~2023年7月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！  
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。  
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

**\*ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、  
中古文学会の会員であることをお知らせください。**

### ●ご連絡先

Mail [info@bensei.jp](mailto:info@bensei.jp)  
電話 03-5215-9021  
FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が  
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は  
右のQRコードから  
ダウンロードいただけます。



# 平安文学の饗宴

定価 一六、五〇〇円(税込)

[本体価格 一五、〇〇〇円]

A5判・上製カバー装・512頁

ISBN978-4-585-39028-2 C3095

二〇二三年四月刊行



## 中野幸一「編」



『伊勢物語』、『源氏物語』、『土左日記』、『更級日記』…  
様々な作品が相互に関連し、漢詩や和歌などにも

多大な影響を与えてきた平安文学。

それは平安時代のみならず、

近世、近現代の文学など、

現代にもつながる潮流となり

変容を遂げ続けている。

流動し続ける平安文学の

深く豊かな世界を解き明かす。

平安文学研究を領導する

二十二の論考による知の饗宴。

編者プロフィール

**中野幸一** (なかのこういち)

早稲田大学名誉教授。文学博士。専攻は平安文学。二〇一一年瑞宝中綬章受章。

主な編著書に『物語文学論攷』(教育出版センター、一九七二年)、『うつほ物語の研究』(武蔵野書院、一九八一年)、『奈良絵本絵巻集』全十二巻別巻三巻(早稲田大学出版部、一九八七～一九八九年)、『常用源氏物語要覧』(武蔵野書院、一九九五年)、『源氏物語古註釈叢刊』全十巻(武蔵野書院、一九七八～二〇一〇年)、『フルカラー 見る・知る・読む 源氏物語』(勉誠出版、二〇一三年)、『ちりめん本影印集成 日本昔物語篇』(共編 勉誠出版、二〇一四年)、『正訳源氏物語本文対照』全十冊(勉誠出版、二〇一五～二〇一七年)、『正訳紫式部日記本文対照』(勉誠出版、二〇一八年) などがある。



あとがき

有馬義貴 ● 諸巻の読まれ方をめぐる『源氏物語』作者の意識

順番の問題を中心に、手紙という方法に着目して

稲垣智花 ● 『大鏡』における歌語りの享受——「負性」を表す方法として

大倉比呂志 ● 『土佐日記』亡児追憶の原形質——『万葉集』からの遡及

付、『讃岐典侍日記』への波及

川名淳子 ● 『紫式部日記』と『紫式部日記絵巻』の間——「描かれた」五十日の祝いを「読む」

木戸久二子 ● 三河の国八橋について

金秀美 ● 国宝『源氏物語絵巻』『夕霧』の象徴性を読み解く——夕霧の服装がみちびくもの

金孝淑 ● 植民地朝鮮におけるメディアと教科書、そして『源氏物語』

「朝鮮日報付録」『学習ページ』の「脚本源氏物語」を中心に

久下裕利 ● 玉鬘十帖の成立と位相

栗山元子 ● 『源氏物語』と「高唐賦」

朝顔巻巻末の藤壺の亡霊出現と柏木の死をめぐる表現における影響の可能性

高野浩 ● 『蜻蛉日記』兼家の求婚場面試解

「しれたるやうなりや」、「人知れず」歌を中心に

早乙女利光 ● 『伊勢物語』芥川章段——女を「おふ」のか「ある」のか

助川幸逸郎 ● 眠れる美女にこがれる薫——源氏物語と川端文学が共有する「エロスの構造」

半谷芳文 ● 奈良末・平安初期における初唐絵巻の受容

釈慧浄編『続詩苑英華十巻』の伝来と流布、及び序文の訓注

緑川真知子 ● The Tale of Genji との日々

ロイヤル・タイラー氏自伝『盲亀大海をたゆたう——自伝的回想録』から

門澤功成 ● 『うつほ物語』忠こそ巻と『後撰和歌集』の「涙川」

成立基盤としての眞信公流・九条流

山田利博 ● 『源氏物語』若紫巻に登場する「左中弁」はどこへ行くのか?

「物語」の人物描写法に関する一考察

横溝博 ● 近世における『いほでしのぶ』諸本の展開

前田家本と京大本の比較からの伝本考

吉見健夫 ● 幻巻の和歌試論——光源氏の現世離脱意識の形成

河野貴美子 ● 『仙源抄』の注釈方法——漢字をあてる注を中心に

陣野英則 ● 『源氏物語』篝火巻における韻律的表現——その全文を対象とした試論

新美哲彦 ● 『言経卿記』に見る女性たちの文学作品享受——西御方(祐心尼)を中心として

福家俊幸 ● 『更級日記』の『蜻蛉日記』享受

書名	部数
平安文学の饗宴 中野幸一(編)	部
定価 16,500円(本体価格15,000円) A5判・上製カバー装・512頁 2023年4月刊行 ISBN978-4-585-39028-2 C3095	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

# 深掘り! 紫式部と 源氏物語

中野幸一〔著〕

2024年  
大河ドラマを  
より楽しむための  
必携の一書!

定価2,640円

(本体価格2,400円)  
四六判・並製カバー装・264頁  
2023年4月刊行  
ISBN978-4-585-39010-7 C0095

『源氏物語』の作者として誰もがその名前を知っている紫式部。彼女はいつ生まれていつ亡くなったのか、彼女はいかなる生涯を送り、どのような性格で、どのような考えを持っていた人だったのか…。『源氏物語』、『紫式部日記』、『紫式部集』などを中心に、系図や当時の記録類、交友関係や周囲の人々との交流などを参考にして、これまで具体的に明らかにならなかった、紫式部の生涯と人間像を解明する。また、『源氏物語』を読む上で、知っておくとより物語が楽しめる、10のエッセンスも紹介。平安文学研究・源氏物語研究の第一人者が、紫式部と源氏物語の魅力を余すところなく伝える。

著者プロフィール

中野幸一 (なかのこういち)

早稲田大学名誉教授。文学博士。専攻は平安文学。二〇一一年瑞宝中綬章受章。主な編著書に『物語文学論攷』(教育出版センター、一九七二年)、『つばは物語の研究』(武蔵野書院、一九八一年)、『奈良絵本絵巻集』全十二巻別巻三巻 早稲田大学出版部、一九八七・八九年)、『常用源氏物語要覧』(武蔵野書院、一九九五年)、『源氏物語古註釈叢刊』全十巻(武蔵野書院、一九七八・二〇一〇年)、『フルカラー 見る知る・読む 源氏物語』(勉誠出版、二〇一三年)、『ちりめん本影印集成 日本昔噺篇』(共編、勉誠出版、二〇一四年)、『正訳 源氏物語本文対照』全十冊(勉誠出版、二〇一五・二〇一七年)、『正訳紫式部日記本文対照』(勉誠出版、二〇一八年)などがある。



はじめに

## 第1部 深掘り! 紫式部

- [1] ……従来の紫式部像
- [2] ……学才に対する自負
- [3] ……家系と家庭環境
- [4] ……娘時代の体験と性格
- [5] ……恋愛・結婚・出産・死別
- [6] ……具平親王家出仕の可能性
- [7] ……初出仕と伺候名
- [8] ……宮仕え生活と『源氏物語』
- [9] ……紫式部の思考と性格

## 第2部 深掘り! 源氏物語

- [1] ……「桐壺」の巻は初めの巻?
- [2] ……「かざり」とは?
- [3] ……登場人物の消滅と再生
- [4] ……『源氏物語』の短文表現
- [5] ……『源氏物語』の題及表現
- [6] ……草子地の諸相
- [7] ……『源氏物語』と貴族の生活習慣
- [8] ……『源氏物語』の擬作の巻々
- [9] ……古物語の型と『源氏物語』
- [10] ……古物語の合成発展  
——短編から長編へ

紫式部年表

書名	部数
深掘り! 紫式部と源氏物語	
中野幸一(著)	
ご送付先ご住所 (通信欄)	
	定価2,640円(本体価格2,400円) 四六判・並製カバー装・264頁 2023年4月刊行 ISBN978-4-585-39010-7 C0095

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
千代田区神田三崎町2-18-4株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

## 王朝物語論考

## 物語文学の端境期

横溝博〔著〕

## 新たな物語史の構築のために――

平安後期から中世、さらには近現代においてもなお、  
王朝文学はその命脈を保ち、生成されていく。  
古い趣向を滋養として吸収しつつ、  
時代の壁を越え、  
新しさを打ち出していく不断の営み――  
これら王朝物語の世界の豊饒さは、  
物語文学生成の最先端の場を  
今に伝える貴重な証言である。

言語表現やプロット、  
さらには絵画表現へも視角を広げ、  
相互に干渉し、響き合う物語相互の関係性を  
動態として捉え、  
新たな王朝文学史構築のための礎を築く画期的著作。

## 著者プロフィール

## 横溝博（よこみぞ・ひろし）

一九七一年、東京都生まれ。現在、東北大学大学院文学研究科教授。専門は  
中古・中世物語文学。著書に『九曜文庫蔵奈良絵本 絵巻集成竹取物語絵巻』共  
編著、勉誠出版、二〇〇七年、論文に『源氏物語』の勝利――「絵合」巻  
における主家讀美の方法と紫式部』共編著『日本古典文学を世界にひらく  
――EASJS（ヨーロッパ日本研究協会）で発表しよう』勉誠出版、二〇二  
二年）などがある。

序

## I 平安後期物語論

- 第一章 『浜松中納言物語』吉野姫の〈内〉と〈外〉  
――吉野姫をつなぎとめるものとの関わりから  
第二章 『夜の寝覚』生霊事件の一面――男君自身の問題として  
第三章 『夜の寝覚』の引歌表現「思ふももの心地」をめぐって  
――『源氏物語』「葵」巻の六条御息所との関わりから  
第四章 『落窪物語』と『夜の寝覚』の〈事件〉  
――平安朝物語文学史の再構築に向けて

## II 院政期物語論

- 第一章 『海人の苅藻』按察家の人々――院政期物語文学論・序説  
第二章 院政期物語としての『海人の苅藻』  
――『栄花物語』もしくは藤原頼通の時代からの継承  
第三章 『在明の別』冒頭場面・再説――三条女との接点をめぐって  
第四章 後期物語から見る物語史  
――『源氏物語』の複合的引用と多重化する物語取り

## III 中世物語論

- 第一章 『木幡の時雨』実子イジメの基底――母上の怨恨をめぐって  
第二章 『木幡の時雨』の構想について  
――改作『海人の苅藻』との接点をめぐる試論  
第三章 『住吉物語』における『源氏物語』撰取について  
――改作と創作の狭間から

## IV 源氏物語の続篇

- 第一章 『山路の露』の成立  
――『建礼門院右京大夫集』『正治初度白首』との関わりをめぐって  
第二章 『山路の露』のアレゴリー――二河白道図からの発想  
第三章 『山路の露』の浮舟と和歌――『手習の君』の継承をめぐって

## V 歴史物語と作り物語

- 第一章 『物語合』虚構論――十九番目の物語  
第二章 六条斎院祿子内親王家「物語合」の復原  
――『後拾遺和歌集』の詞書の再検討を通して  
第三章 『栄花物語』と平安朝物語の関係  
――『うつほ物語』の影響、成熟する歴史語り  
第四章 『栄花物語』と中世王朝物語の関係  
――『風につれなき物語』を例として

## VI 短篇物語と翻案小説

- 第一章 『虫めづる姫君』を読む――冒頭部の解釈をめぐって  
第二章 『虫めづる姫君』の教え  
第三章 室生犀星の王朝小説『虫姫物語』  
――『虫の章』「何処の野に」『虫姫日記』から

あとがき／初出一覧／索引

定価 一三、二〇〇円（税込）

〔本体価格 一二、〇〇〇円〕

A5判・上製カバー装・六〇八頁

ISBN978-4-585-39024-4 C3095

二〇二三年二月刊行

部 数

定価13,200円（本体価格12,000円）

A5判・上製カバー装・608頁

2023年2月刊行

ISBN978-4-585-39024-4 C3095

部

## 王朝物語論考 物語文学の端境期

横溝博〔著〕

ご送付先ご住所（通信欄）

# 学習院本

## 「藤袴」(榊原本僚帖)の

## 書誌学的考察

武藤那賀子〔著〕

定家本系統でありながら

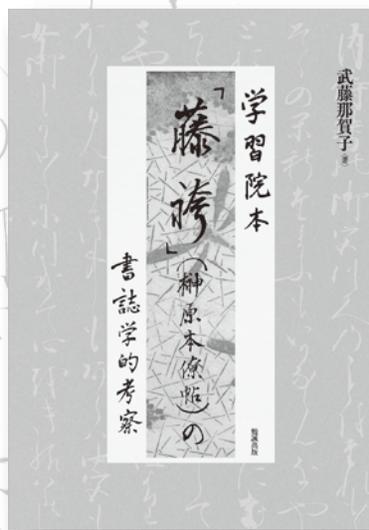
注目すべき独自本文を具備した鎌倉時代中期写本、

学習院大学蔵『源氏物語』「藤袴」帖の全編を高精細のカラー画像にて影印。

さらに、全編の翻刻および僚帖である国文研蔵「榊原本」をはじめ、

諸本との比較検討による考察を記した研究篇を収載。

書誌学的知見を活かした『源氏物語』研究における新たな礎を提示する。



定価 一六、五〇〇円(税込)  
〔本体価格一五、〇〇〇円〕

B5判・上製カバー装・184頁  
ISBN978-4-585-39023-7 C3095  
二〇二三年三月刊行

はじめに  
影印編 学習院本「藤袴」

解説編

一 書誌情報

補論 日本大学所蔵三条西家本と榊原本——「桐壺」巻の書誌情報の比較

二 翻刻

三 表記

四 書誌学から読みへ

補遺 学習院大学所蔵 三条西家旧蔵本『源氏物語』「若紫」「須磨」「明石」の書誌

あとがき

著者プロフィール

武藤那賀子(むとう・ながこ)

一九八五年生まれ。鹿児島国際大学准教授。

著書に、『うつほ物語論 物語文学と「書くこと」』(笠

間書院、二〇一七年)、論文に『日本霊異記』におけ

る動物化した人々』(『物語研究』第二号、二〇二一

年三月)、『ディアスポラを志向する昔男——『伊勢

物語』「東下り」の和歌と境』(『日本文学』二〇二二

年三月)、『同じ呼称の人物が織りなす物語——『淺

茅が露』における「中将』(『物語研究』第三号、

二〇二三年三月)など多数。

書名	部数
学習院本「藤袴」(榊原本僚帖)の書誌学的考察 武藤那賀子(著)	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価16,500円(本体価格15,000円)  
B5判・上製カバー装・184頁  
2023年3月刊行  
ISBN978-4-585-39023-7 C3095

# 源氏物語 歌篋

げんじものがたり  
うたがたみ

伊東祐子〔著〕

和歌から読み解く『源氏物語』

生きる喜び、人を愛する幸せ、  
愛するがゆえの苦悩、別れの悲しみ、古いへの恐れ……  
『源氏物語』に登場する人物たちは誰もが歌をよみ、  
その心情を伝える。

また、古歌を踏まえた表現——「引歌」——により、  
物語の世界観はより一層豊かなものとなっている。

本書では『源氏物語』のあらすじを、  
作中人物歌・引歌とともに丁寧に解説し、  
作中人物の重要な会話文や  
心内語(心中思惟)をも丹念に読み解く。

臨場感あふれる魅力的な物語世界を  
感じることができる

『源氏物語』入門書としても最適な一冊。

著者プロフィール

伊東祐子(いとう ゆうこ)

一九八八年学習院大学大学院人文科学研究科国文学専攻博士後期課程単位取得退学。博士(日本語日本文学)。学習院大学助教。都留文科大学非常勤講師。NHK文化センター青山教室講師、学習院さくらアカデミー講師、他。

著書に「藤の衣物語絵巻(遊女物語絵巻) 影印・翻刻・研究」(笠間書院)。「源氏物語の鑑賞と基礎知識」横笛・鈴虫(共著)(至文堂)。「平安時代文学美術語彙集成」(共著)(笠間書院)、論文に「青表紙本と河内本について——作中歌を中心に」(学習院大学国語国文学会誌26)、「物語と絵をめぐって——源氏物語音読論の再検討」(『論集平安文学』6)「勉誠社」、「物語文学史再考」(『中古文学』86) などがある。



はじめに

## 第一部 栄華への道のり

光源氏誕生\*桐壺(1)

雨夜の品定め\*帚木(2)

空蟬との恋\*帚木(2)・空蟬(3)

夕顔との恋\*夕顔(4)

紫のゆかりとの出会い\*若紫(5)

末摘花との恋\*末摘花(6)

秘密の皇子誕生\*紅葉賀(7)

臘月夜との恋のはじまり\*花宴(8)

若君の誕生と葵の上の死\*葵巻(9)

桐壺院の崩御と藤壺の出家\*賢木(10)

花散里での懐旧のひと時\*花散里(11)

光源氏の須磨退去\*須磨(12)

明石の君との出会いと別れ\*明石(13)

冷泉帝の即位と明石の姫君誕生\*薄標(14)

末摘花との再会\*蓬生(15)

空蟬との邂逅\*閑屋(16)

齋宮女御の入内と絵合\*絵合(17)

## 第二部 欠けてゆく月

女三の宮の六条院降嫁\*若菜上(34)

女三の宮、柏木の子を宿す\*若菜下(35)

女三の宮の出家と柏木の死\*柏木(36)

柏木遺愛の笛のゆくえ\*横笛(37)

## 第三部 光源氏亡き後・宇治十帖

匂ふ兵部卿と薫の中將\*匂ふ兵部卿(42)

按察大納言一家の物語\*红梅(43)

故髭黒太政大臣家のその後\*竹河(44)

宇治の姫君たちとの出会い\*橋姫(45)

八の宮の死と姫君たちの悲しみ\*椎本(46)

中の君の結婚と大君の死\*総角(47)

中の君の都移り\*早蕨(48)

明石の御方の上京と再会\*松風(18)

藤壺崩御と明石の姫君二条院へ\*蓬生(19)

朝顔の姫君への恋\*朝顔(20)

夕霧の元服と初恋\*少女(21)

夕顔の遺児・玉鬘との出会い\*玉鬘(22)

新春の六条院\*初音(23)

玉鬘求婚のはじまり\*胡蝶(24)

五月雨の日の物語論\*螢(25)

内大臣の娘・近江の君登場\*常夏(26)

下燃えの恋の思い\*篝火(27)

夕霧が垣間見た六条院の女君\*野分(28)

大原野行幸と玉鬘の裳着\*行幸(29)

玉鬘の尚侍出仕をめぐって\*藤袴(30)

玉鬘求婚譚の意外な結末\*真木柱(31)

明石の姫君の皇太子入内準備\*梅枝(32)

光源氏の栄華の極まり\*藤裏葉(33)

持仏開眼供養と鈴虫の宴\*鈴虫(38)

夕霧の恋のゆくえ\*夕霧(39)

紫の上の法華經千部供養と死\*御法(40)

紫の上哀悼の春夏秋冬\*幻(41)

匂宮と六の君との結婚とその余波\*宿木(49)

八の宮の末娘・浮舟登場\*東屋(50)

浮舟をめぐる薫と匂宮\*浮舟(51)

浮舟の失踪と人々の嘆き\*蜻蛉(52)

浮舟の蘇生と出家\*手習(53)

薫の心と浮舟の心\*夢浮橋(54)



定価七、一五〇円(税込)  
〔本体価格六、五〇〇円〕

A5判・上製カバー装・四三二頁  
ISBN978-4-585-39017-6 C3095  
一〇一三年二月刊行

書名	部数
源氏物語歌篋	
伊東祐子(著)	
定価7,150円(本体価格6,500円)	
A5判・上製カバー装・432頁	
2023年2月刊行	
ISBN978-4-585-39017-6 C3095	
ご送付先ご住所(通信欄)	部

# 俊頼髓脳全注釈

としよらずいのう ぜんちゆうしやく

家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・  
館野文昭・福田亮雄〔著〕

定価 一六、五〇〇円(税込)  
〔本体価格 一五、〇〇〇円〕

A5判・上製カバー装・七〇四頁  
ISBN978-4-585-39025-1 C3095  
二〇二三年三月刊行

古代歌論の総体、注釈および貴族説話のさきがけ、  
古代と中世における韻文散文の紐帯を  
解明する鍵がここにある。

約半世紀ぶりに書き換えられた

『俊頼髓脳』の完全注釈。

歌病・歌体・歌枕など初期歌論書における格式の集成は、  
言わば、古代歌論の総集であり、それに続く歌語釈は、  
現存最古の和歌注釈で、  
かつ『江談抄』とともに貴族説話の嚆矢でもある。  
定家本を底本にして

顕昭本・略本系本を対校した本文に、  
先行資料および同時代歌論書などの文献を網羅した  
語釈を付す『俊頼髓脳』全注釈である。

## 『俊頼髓脳』とは

源俊頼によって書かれた歌論書。二二二〜二二三年成立とされる。  
源俊頼は平安時代後期の貴族・歌人。『金葉和歌集』以後の勅撰和歌集  
に二〇一首入集。『金葉和歌集』(三十五首)と『千載和歌集』(五十二首)  
では最多入集歌人となっている。

## 俊頼髓脳全注釈

凡例

序／歌の姿、病を避るべきこと／歌の病を避ること／文字数／  
歌詠むもの／歌の詠み方―題の詠み方／景物の詠み方／  
歌の良しといふこと／言ひがら／似物／おぼろげにては詠むまじき詞／  
古歌に詠み増すこと／歌の返し／物の名を言はて、心に思はせたる歌／  
歌枕／歌語釈／連歌／歌語釈／歌道への執心／詠歌の遅速／  
能因法師の歌人としての態度／歌の良し悪し／  
好む者を歌詠みとはいふなり／良暹と経信／跋

## 解説

- 《概説》  
1 『俊頼髓脳』と源俊頼  
2 本書の本文と対校本について  
《論考》  
『俊頼髓脳』の構造◎小野泰央  
『俊頼髓脳』と後代の歌学書◎家永香織

あとがき◎家永香織  
索引

## 著者プロフィール

家永香織(いえなが・かおり)

一九六二年生。立教大学文学部特任教授。著書に『為忠家初度百首全釈』(風  
間書房・二〇〇七年)、『為忠家後度百首全釈』(同・二〇一一年)、『転換期  
の和歌表現 院政期和歌文学の研究』(青簡舎・二〇二二年)など。

小野泰央(おの・やすお)

一九六五年生。中央大学文学部教員。著書に『平安朝天曆期の文壇』(風  
間書房・二〇〇八年)、『中世漢文学の形象』(勉誠出版・二〇一一年)、『創  
造するための文章』(真珠書院・二〇一三年)など。

鹿野しのぶ(しかの・しのぶ)

一九七一年生。日本大学非常勤講師。著書に『冷泉為秀研究』(新典社・二  
〇一四年)など。

館野文昭(たての・ふみあき)

一九八四年生。埼玉大学大学院人文社会科学科准教授。著書に『中世歌  
学知』の史的展開』(花鳥社・二〇二二年)など。

福田亮雄(ふくだ・あきお)

一九六七年生。中央大学非常勤講師。真言宗成就院住職。

書名	部数
俊頼髓脳全注釈 家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・館野文昭・福田亮雄〔著〕	部
定価 16,500円(本体価格15,000円) A5判・上製カバー装・704頁 2023年3月刊行 ISBN978-4-585-39025-1 C3095	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

亀澤孝幸 〈著〉

## 文と書

## 中国書字思想の探究

著者略歴

亀澤孝幸(かめざわ たかゆき)

立正大学文学部文学科日本語日本文学専攻コース特任講師、大東文化大学文学部中国文学科非常勤講師、同大学書道研究所兼任研究員、人文科学研究所兼任研究員。

専門は中国書道史・書論。訳書に中国国家文物鑑定委員編『中国文化財図鑑』第六巻 文房具(翻訳・監修、科学出版社東京、二〇一六年)、劉濤『中国書法史入門』(科学出版社東京、二〇一三年)がある。

「文字を書くこと」の思想体系を探る――

近代以前の中国において、「書」は文学や絵画と並ぶ最高の芸術とみなされていた。文字をつかさどることは世界の統治と同等の意味を有し、この根源的な政治性とあいまって、文字や言葉を書き記す「書」は中国文化における重要な地位を占めるに至った。書論のみならず文字学、言語哲学、文学論、画論など文字や書くことに関する諸種のテキストを相互に接続、交差させることで、「文字を書くこと」に関する思想――書字思想の体系を明らかにする。近代以降に形成された造形芸術としての片面的な評価を改め、「書字」という人間の普遍的な営みから「書」の意義を捉えかえす意欲作。

## 目次

序論	一 本書の主題
	二 造形芸術としての書への批判
	三 言語に根ざす書
	四 中国書字思想の探究
	五 本書の構成
第一章 言葉・文字・書	一 文字と権力
	二 声の文化と文字の文化
	三 共通語としての漢字・漢文
	四 「史」と書字
	五 言葉への怖れ
	六 書字の蔑視
	七 張懷瓘の書字思想
第二章 文の起源	一 「文」の概念体系
	文字／文様／文章・書物・学問／色彩／音声・音楽／まじわるること／本質の外面的なあらわれ
	かざり・形式／文化・礼楽制度・儀礼／文徳(文治の徳)
	殷代甲骨・金文にみえる「文」
	西周金文にみえる「文」
	「尚書」にみえる「文」
	「詩経」にみえる「文」
	「文」と祖先崇拜
第三章 文と書の芸術化	一 芸術と理論
	二 文と詩
	三 永明文学と永明書学
	四 書の美学の確立
	王献之と羊欣／王僧虔／「工夫」の肯定
	王僧虔「認書」のテキストが孕む問題／蕭子良と梁武帝
第四章 風骨の美学	一 美学概念としての「風骨」
	二 魏晋南北朝から唐末までの「風骨」の用例
	三 「風骨」の美学の形成
	四 劉勰の「風骨」論
	五 張懷瓘の「風骨」論
	書論論を貫く「風骨の美学」
	張懷瓘の書論にみえる「風骨」
	「風神」と「風骨」
	「風骨」と「尚古主義」
	「四賢論」の系譜
	形骸化した王羲之書法への批判
	唐代文学に受け継がれた「風骨」
第五章 文・書・画の理論的統合	一 劉勰の文論
	二 張懷瓘の書論
	三 張彦遠の画論
	張懷瓘と張彦遠／書画同体論
	画聖・呉道玄と「山水の変」
	画の社会的地位

参考文献一覧・あとがき・初出覧・索引

定価 8,800 円  
本体 8,000 円A5判・上製カバー装・288頁  
ISBN978-4-585-37008-6 C3071  
2023年3月刊行

書名	部数
文と書 中国書字思想の探究 亀澤孝幸(著)	部
定価8,800円(本体価格8,000円) A5判・上製カバー装・288頁 2023年3月刊行 ISBN978-4-585-37008-6 C3071	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
千代田区神田三崎町2-18-4株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

# 輞川図と蘭亭曲水図

## イメージとテキストの交響

もうせんず とらんでいきよくすいず

### カラー口絵

## 野田麻美・ 静岡県立美術館〈編〉

東アジアにおける文学・書・画の世界を考えるうえで、とりわけ重厚な二つの画題

——「輞川図」と「蘭亭曲水図」。

文人画の祖とされる王維、書聖として崇められる王羲之にまつわる故事を絵画化するなかで、園林を舞台とする文人たちの交流は、いかにして描かれ、

その風景表現はどのように展開したのか。

二〇二二年に修理を終えた静岡県立美術館所蔵の「輞川図巻」をはじめ、近年注目を集める「蘇州片」や、久隅守景、池大雅、富岡鉄斎らの優品など、中国と日本、そして、宋代から近代に至るまでの王維・王羲之イメージを精査・検討。

諸分野の第一線の研究者による論考と

カラー図版を含む二〇〇点超の書画資料より、

イメージとテキストの連環が織りなす

ダイナミックな世界を照らし出す。

### 編者プロフィール

#### 野田麻美 (のだ あさみ)

一九七九年生まれ。神戸大学大学院人文学研究科専任講師・静岡県立美術館客員学芸員。専門は日本美術史(近世絵画)。

著書に『美しき庭園画の世界——江戸絵画にみる現実の理想郷』(静岡県立美術館、二〇一七年)、『忘れられた江戸絵画史の本流——江戸狩野派の二五〇年／江戸狩野派の古典学習——その基盤と広がり』(静岡県立美術館、二〇二一年) などがある。

### はじめに ●野田麻美

#### 第一部 輞川図をめぐる諸問題

——元々明代／近代日本の輞川図と『輞川集』

紺野達也 ● 絵画における王維「輞川集」——元明の面論・画評を中心に

呉 孟晋 ● 静岡県立美術館本からみる輞川図の展開

板倉聖哲 ● 模倣か空想か、複製か贋作——「蘇州片」をめぐる諸問題

植松瑞希 ● 明代蘇州における輞川憧憬の諸相

塚本磨充 ● 日本近代における南面の危機意識と「輞川図巻」・王維の再評価

——富岡鉄斎から小室翠雲まで

#### 第二部 蘭亭曲水図をめぐる諸問題

——明代／江戸時代の蘭亭曲水図と『蘭亭序』

佐藤康宏 ● 蘭亭曲水図の表現——明代中期から江戸中期へ

横尾拓真 ● (コラム) 大雅作品に見る烹茶場面の添景について

——静岡県立美術館所蔵「蘭亭曲水・龍山勝会図屏風」を中心に

野田麻美 ● 久隅守景「蘭亭曲水図屏風」試論

——江戸狩野派の蘭亭曲水図にみる遊宴図像の展開

六人部克典 ● (コラム) 宋代以降の王羲之書法の継承

高橋利郎 ● (コラム) 江戸時代の「蘭亭序」

「輞川図と蘭亭曲水図」展 カラー口絵 作品解説

「輞川図と蘭亭曲水図」展 展示リスト

おわりに ●野田麻美

書名	部数
<b>輞川図と蘭亭曲水図</b> イメージとテキストの交響 野田麻美・静岡県立美術館〈編〉	定價 10,450円(本体価格9,500円) A5判・上製カバー装・304頁 2023年5月刊行 ISBN978-4-585-37009-3 C3701
ご送付先ご住所(通信欄)	

## 【最新号】

## 第六号 目次

〔論文〕

杜甫の詩における「山河」の在り方とその変質について

——安史の乱の前後を中心に◎遠藤星希

杜甫詩の月が照らすもの◎高芝麻子

杜甫の自注にみえる編年意識について——「自京赴奉先縣詠懷五百字」以降の展開◎好川聡

「家書」は届いたか——杜甫「春望」の「家書抵万金」について◎後藤秋正

杜甫「示從孫濟」——門閥意識を生きた詩人◎松原朗

『杜詩諺解』の構造とそこに見える解釈の位相 其一——玉華宮から◎成澤勝

〔訳注〕

杜甫「鵬賦」(鵬の賦) 訳注(二)◎谷口眞由実

杜甫「東西両川説」 訳注◎谷口匡

〔研究概況及び文献収録〕

日本新世紀(二〇〇〇—二〇二〇) 杜甫研究綜述

◎趙蕊蕊(大橋賢一・加藤聰・紺野達也・佐藤浩一 訳注)

日本における杜甫研究集録(二〇二一)◎大橋賢一・加藤聰・紺野達也

日本杜甫学会会則・彙報・編集後記

## 杜甫研究年報

とほけんぎゅうねんぽう

日本杜甫学会「編」

定価 二,三〇〇円(税込)

〔本体価格 三,〇〇〇円〕

A5判・並製・七六頁  
ISBN978-4-585-39446-4 C3095  
11013年四月刊行

11013年四月刊行

その詩は、それ以前の詩の総括であるとともに、以後の中国詩の出発点でもある。

日本においては、五山の僧の崇敬、芭蕉の傾倒があり、

明治以後も、中江兆民・島崎藤村・正岡子規を始め、

知識人・国民の間で、その親愛の念は一貫して揺るがないものだった。

漢文教育においても、杜甫の詩は教材の中で重要な位置を占めてきた。

世界における杜甫への関心を見つめつつ、変転する時の中で

無窮の未来に向かって杜甫研究を進展させ続ける一冊。

部数

書名

杜甫研究年報 第六号

日本杜甫学会〔編〕

定価 3,300円(税込)/本体3,000円

A5判並製・176頁/2023年4月刊行  
ISBN978-4-585-39446-4 C3098

部

第五号 A5判並製・96頁/2021年4月刊行  
ISBN978-4-585-39445-7 C3098第四号 A5判並製・104頁/2021年4月刊行  
ISBN978-4-585-29444-0 C3098第三号 A5判並製・112頁/2020年5月刊行  
ISBN978-4-585-29443-6 C3098第二号 A5判並製・88頁/2019年5月刊行  
ISBN978-4-585-29442-9 C3098創刊号 A5判並製・116頁/2018年4月刊行  
ISBN978-4-585-29441-2 C3098

シリーズ

杜甫研究年報 〈定期購読〉

日本杜甫学会〔編〕

毎号・定価 2,200~3,300円(税込)

〔本体2,000~3,000円〕A5判並製・約100頁  
2018年以降~毎年春頃、年1回刊行

部数

ご送付先住所

杜甫と玄宗皇帝の時代

〔アジア遊学220〕

松原朗〔編〕

定価 3,080円(税込)/本体2,800円

A5判並製・272頁/2018年6月刊行  
ISBN978-4-585-22686-4 C1398

FAX 03-5215-9025

勉誠出版 ※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
千代田区神田三崎町2-18-4株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

注文書

好評既刊

# モノと権威の 東アジア交流史

## 鑑真から清盛まで

シャルロツテ・フォン・ヴェアシュア〔著〕

巻頭言◎鈴木靖民（國學院大學名誉教授）

対外交易の歴史的意義を探る古代東アジアにおいて、対外交易はごく限られた機会のものではあったが、それだけに一層、各国の政治や文化の形成に大きなインパクトを与えてきた。特に日本においては、中国や朝鮮半島から伝わる最新の情報やモノは、権威の象徴としても重要な位置を占めるものであった。「モノ」「ヒト」「情報」など諸種の要素を仔細に検討することで、政治・経済・文化にわたる重層的な「対外交易」の実態と歴史的意義を照射。物質文化史・対外関係史・農業史・比較史など多角的な視点を駆使し、従来の歴史理解へ新たな視点を提示してきた著者による、長編の書き下ろしを含む最新論集。

著者プロフィール

シャルロツテ・フォン・ヴェアシュア (Charlotte von Verschuer)

フランス・高等研究院歴史学部教授。専門は日本古代・中世の国際関係と物質文化の歴史。日本の経済史を対外貿易と国内生活の二面から研究している。著書に『モノが語る日本対外交易史——七〜十六世紀』（河内春人訳、藤原書店、二〇二二）、『フランス語著書に「八〜九世紀の日中関係」（一九八五）、「平安時代と五穀文化」（二〇〇三）、「史料の賛辞：古代から近世の日本を考える」（共編著、二〇〇四）、「欧文日本古代史料解題辞典」（共編著、二〇〇六）などがある。

定価 五、二八〇円（税込）  
〔本体価格四、八〇〇円〕

四六判・上製カバー装・三六八頁  
ISBN978-4-585-32022-7 C3020  
二〇二三年五月刊行

- 第一章 九世紀日本の情報輸入体制  
第二章 帰国後の遣唐使の待遇について  
第三章 唐・宋における日本蓬萊観と水銀輸入について  
第四章 水銀と虎の皮——日渤海関係における特産品  
第五章 鑑真と香薬  
第六章 遣唐使と大安寺  
第七章 平安時代と唐物  
第八章 平清盛と唐船  
第九章 平氏政権の貿易体制  
補論1 地中海文明と古代ペルシャ、そして日本の唐物  
補論2 仏教東流とキリスト教の西流  
——東シナ海と地中海の比較  
コラム 寧波の商人寄進石碑をめぐって

初出一覧・謝辞  
解説◎河内春人（関東学院大学准教授）  
索引

書名	部数
モノと権威の東アジア交流史 鑑真から清盛まで シャルロツテ・フォン・ヴェアシュア〔著〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 5,280円（本体価格4,800円）

四六判・上製カバー装・368頁  
2023年5月刊行  
ISBN978-4-585-32022-7 C3020

# 館隆志

(たち・りゅうし)一九七六年生まれ、駒澤大学専任講師、曹洞宗龍音寺住職、駒澤大学禅研究所研究員、花園大学国際禅学研究所客員研究員、東洋大  
学東洋学研究所客員研究員、著書に、『園城寺公胤の研究』(春秋社、二〇一〇年)、『蘭溪道隆禅師全集』第一巻「蘭溪和尚語録」(共編、思文閣出版、大  
山建長寺、二〇一四年)、『禅宗入門』(共著、別冊太陽239、平凡社、二〇一六年)、『中世禅の知』(共著、臨川書店、二〇二二年)など多数。

# 鎌倉時代禅僧喫茶史料集成

## 禅僧たちの記録からよみがえる 鎌倉時代の喫茶文化

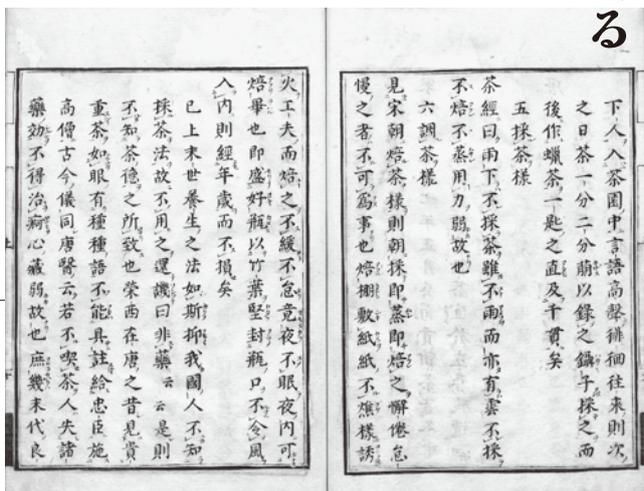
茶の文化は禅と深く関わるものであり、近年はその価値への世界的評価の高まりとともに、研究も盛んになっている。

なかでも茶を日本に伝えた栄西をはじめ、鎌倉時代の禅僧たちの史料は、禅と茶を語る上で避けては通れない。

しかし、禅僧による史料は膨大であり、かつ難解なものも多く、これまで体系的な研究がなされてこなかった。本書は、鎌倉時代の禅僧の史料を博搜し、喫茶史料を抽出、書き下し・現代語訳および訳注、解説を付す。禅と茶の研究に新たな視座を提供する決定版史料集。

### 本書の 特色

- ・鎌倉時代の禅僧の喫茶史料を収集して、難解な史料に対して読解と研究の手掛かりを提示。
- ・書き下しを行ない、できる限り語注を付け読解に資するように詳細な注記を付した。
- ・訳文を付けているので、研究者のみならず、鎌倉時代の禅と茶の関係を知りたいと思う人にも読むことができるものとなっている。
- ・収集した史料を、禅僧の寂年を基本として順に配することで、鎌倉時代の禅と茶の歴史をたどることができるようになっている。



喫茶養生記  
(国立公文書館所蔵)  
建仁寺開山栄西によつて著された日本最古の茶書。

定価一四、八五〇円(税込)  
(本体一三、五〇〇円)  
A5判上製カバー装 七八四頁  
二〇二三年二月刊行  
ISBN978-4-585-31014-3 C3014

### 史料収集の 対象とした 禅僧

- 1 栄西(一一四一～一一五五)
- 2 道元(一一〇〇～一一五三)
- 3 蘭溪道隆(一一二三～一一七八)
- 4 月峰了然(生没年不詳)
- 5 兀庵普寧(一一九八～一二七六)
- 6 円爾(一一〇二～一一八〇)
- 7 無学祖元(一一二六～一一八六)
- 8 大休正念(一一二五～一一八九)
- 9 東山湛照(一一三三～一一九二)
- 10 白雲慧暁(一一二九)
- 11 寒巖義尹(一一二七～一一三〇)
- 12 山叟慧雲(一一二七～一一三〇)
- 13 無象静照(一一三四～一一〇六)
- 14 鏡堂覚円(一一四四～一一〇六)
- 15 南浦紹明(一一三五～一一〇八)
- 16 詮慧(生没年不詳)・経豪(生没年不詳)
- 17 徹通義介(一一二九～一一三〇)
- 18 無住道暁(一一二七～一一二二)
- 19 規庵祖円(一一二六～一一三三)
- 20 高峰顕日(一一四一～一一二六)
- 21 奇山円然(一一三二)
- 22 一山一寧(一一四七～一一二七)
- 23 約翁徳儉(一一四四～一一三〇)
- 24 秋澗道泉(一一六三～一一三三)
- 25 瑠山紹瑾(一一六四～一一三五)
- 26 鉄庵道生(一一六二～一一三二)
- 27 元翁本元(一一八二～一一三三)

書名	冊数
<b>鎌倉時代禅僧喫茶史料集成</b> 館隆志(著)	
定価14,850円・本体13,500円	
A5判上製カバー装・784頁 2023年2月刊行 ISBN978-4-585-31014-3 C3014	
ご送付先ご住所(通信欄)	

岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子〔編〕

# 深草瑞光寺所蔵

# 元政上人資料集

## 近世京洛寺院の学問とネットワーク

17世紀を代表する文人僧として日本文化史に巨大な足跡を遺した深草元政上人（一六二三～一六六八）。その遺業は中世から近世に至る移行期の日本文化の実態を解明する上で詳細に分析されるべきものである。京都市伏見区深草の元政庵瑞光寺にのみ所蔵される元政上人自筆資料を中心に、彼を取り巻く文人たちの写本資料も併せて翻刻紹介。江戸時代の文化・歴史研究のみならず中世文学や日本仏教学とも繋がりを持つ、膨大な新出資料集として日本研究に幅広く資する貴重資料集。

### \* 深草元政上人（一六二三～一六六八）

江戸時代前期の日蓮宗の僧。武士の子として京に生まれ、彦根藩士となるも生来病弱のため26歳で致仕出家、その後、深草に庵を結び、46歳で遷化するまでの歳月を、祖師日蓮上人と法華経の教えに従い、戒律を守りひたむきな仏道修業に生きたとして知られている。幼少のころより古典を愛し、文学の人としても著名。松永貞徳や熊沢蕃山、北村季吟、石川丈山など様々な分野の人びとと交友関係を有し、その多岐にわたる著作は多くが出版され、広く読者を得た。主要著作に『龍華歴代師承伝』『本朝法華伝』『釈氏二十四孝』『扶桑隱逸伝』『身延道の記』『温泉遊草』『温泉再遊』『元元唱和集』『聖凡唱和』『草山和歌集』などがある。

### 目次

- カラー口絵  
序文  
目次  
概説・凡例

- 一 自筆和歌
- 二 自筆漢詩・文
- 三 日記・紀行
- 四 法語・宗門
- 五 陳元賛との交流
- 六 書状
- 七 和歌・歌学書の写本
- 八 雑抄
- 九 目録
- 十 肖像面賛・絵画
- 十一 元政追慕
- 十二 瑞光寺に集った文人の筆跡
- 十三 元政自筆本尊等

関連年表  
あとがき  
編者一覧

### 編者略歴

- 岡雅彦**（おか・まさひこ）  
国文学研究資料館名誉教授。専門は江戸文学（咄本・言語遊戯・通俗伝など）、書誌学研究。
- 落合博志**（おちあい・ひろし）  
国文学研究資料館教授。専門は日本中世文学・中世芸能、日本古典籍書誌学。
- 桑名法晃**（くわな・ほうこう）  
身延山大学講師。専門は日蓮教学を中心とした日本仏教学研究。
- 長田和也**（ながた・かずや）  
五島美術館大東急記念文庫学芸員。専門は日本近世文学（洒落本など）。
- 中前正志**（なかもえ・まさし）  
京都女子大学教授。専門は霊験譚や縁起譚を中心とする日本仏教説話の生態に関する研究。
- 那須陽一郎**（なす・よういちろう）  
麻布大学附属高等学校非常勤講師。専門は中世文学の注釈書を中心とした書誌学的研究。
- 原雅子**（はら・まさこ）  
千里金蘭大学名誉教授。専門は上代から近世までの和歌・文学の古典注釈通史から賀茂真淵を核に国文学研究。禅哲研究。
- 村木敬子**（むらき・けいこ）  
五島美術館大東急記念文庫学芸課長。専門は古典籍書誌学を援用した日本文化研究。

定価 **22,000** 円  
本体 20,000 円

B5判・上製カバー装・638頁  
ISBN978-4-585-31013-6 C3015  
2023年3月刊行

書名	部数
深草瑞光寺所蔵 <b>元政上人資料集</b> 近世京洛寺院の学問とネットワーク 岡雅彦〔他編〕	定価 <b>22,000</b> 円（本体価格20,000円） B5判・上製カバー装・638頁 2023年3月刊行 ISBN978-4-585-31013-6 C3015
ご送付先ご住所（通信欄）	

# 黄泉の国との契約書

定価四、一八〇円(税込)  
(本体三、八〇〇円)

B5判並製・二四〇頁・フルカラー  
二〇二三年三月刊行  
ISBN978-4-585-32030-2 C1020

# 東アジアの 買地券

東アジアの墓葬遺構からは、

「買地券」と呼ばれる遺物が発見されることがある。

これは死者や遺族が、墓地を正當に購入したことを示す

売買契約書であり、その多くは冥界の神々と結んだ契約なのである。

古代中国に源を発し、

朝鮮半島や日本でもその遺例が発見されている「買地券」は、

時代・地域により様々な特徴を有し、

東アジアの文化交流史を考えるうえで貴重な資料である。

中国・朝鮮・日本に残る特色ある事例を

多数のカラー図版とともに紹介、

詳細な解説と釈文・現代語訳によって「黄泉の国との契約書」という

不思議な存在を読み解く初めての書。

図版点数二二〇点以上！

〔編著〕

稲田奈津子

(いなだ・なつこ) 東京大学史料編纂所准教授、  
専門は日本古代史・東アジア比較文化史。

王海燕

(ワン・ハイエン) 浙江大学歴史学院教授、  
専門は日本古代史・日中文化交流史。

榊佳子

(さかかき・けいこ) 東京大学史料編纂所学術専門職員、  
専門は日本古代史。

まえがき

前言／凡例

各論で取り上げた買地券の分布図

●中国

建初元年買山地題記

劉元台買地券

会稽亭侯買地券

COLUMN◎買地券にみえる神々

繆承買地券

天冊元年買地券

朱曼妻薛氏買地券

羅健夫妻買地券

羅道訓賣地券

COLUMN◎胡珍妻朱氏四娘壘

馬氏夫人墓誌

COLUMN◎江蘇省蘇州市新出の呉越北宋買地券二点

蔡氏買地券

丘氏兄弟買地券

COLUMN◎多彩な買地券

●朝鮮

武寧王買地券

關祥買地券

世賢買地券

兎山郡買地券

COLUMN◎金柱臣墓域の埋誌

●日本

矢田部益足買地券

宮ノ本遺跡出土買地券

COLUMN◎采女氏埜域碑と墓域の占有

●総論

虚実が交錯する古代中国の買地券…王 海燕

買地券文化と朝鮮・日本…稲田奈津子

図版出典一覧／参考文献一覧／謝辞／収録資料一覧

書名

黄泉の国との契約書  
東アジアの買地券

稲田奈津子・王海燕・榊佳子(編著)

ご送付先ご住所(通信欄)

冊数

定価4,180円・本体3,800円

A5判並製カバー装・240頁・フルカラー

2023年3月刊行

ISBN978-4-585-32030-2 C1020

冊

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX◎03-5215-9025

# 書物學

## BIBLIOLOGY

### 22

特集

# 禅寺の 学問

## 相国寺・ 両足院の 知の体系



特集

中世日本において禅宗寺院は、大陸からの最新の「知」を伝える場として、宗教のみならず、政治・文化を支える重要な「場」であった。なかでも相国寺や建仁寺両足院は、最先端の五山文学の中心地として、多くの碩学を輩出し、当時の「知」をめぐる状況をまざまざと伝える資料が、いまでも大切に伝持・保存されている。相国寺承天閣美術館にて開催された「禅寺の学問——継承される五山文学」、そして、花園大学歴史博物館にて開催された「両足院——いま開かれる秘蔵資料」の成果をもとに、禅宗寺院が日本文化にもたらした「知」の体系を明らかにする。

連載

相国寺承天閣美術館  
「禅寺の学問／相国寺の歴史と寺宝Ⅱ」●本多潤子  
相国寺山内プロジェクトとしての『名庸集』●中本大  
天啓集仗による近世相国寺一山派の復興  
——三祖師頂相制作を中心に●本多潤子  
相国寺慈雲院本「対馬以訂眺望之図」の成立について●米谷均  
花園大学歴史博物館「両足院」  
いま開かれる秘蔵資料」●片山真理子  
五山学芸の経済的背景  
——建仁寺両足院を例として●金文京  
以訂庵輪番について  
——両足院・高峰東峻の例を中心に●片山真理子  
斯道文庫による両足院蔵書調査について  
第二十五番函を例に●堀川貴司  
「美術館紹介」相国寺承天閣美術館●本多潤子  
「博物館紹介」花園大学歴史博物館●片山真理子

連載

書籍文化史料片々・番外●鈴木俊幸  
・浄瑠璃本の流通——抜本表紙に捺された仕入印  
書物の声を聞く書誌学入門●佐々木孝浩  
松朋堂新収古書解題●佐藤道生  
・梵字母略伝（平安初期）写  
・黙稿 春屋宗園撰慶安三年翠巖宗珉全写  
書籍はどう動いたのか——近代書籍流通史料の世界●磯部敦  
・改正日本地誌略暗記問答にみる奈良の売弘人たち（上）  
——地域の書物文化環境を調べるために（2）

## 編集部（編）

定価一、九八〇円（税込）  
本体一、八〇〇円（＋税）  
B5判並製・九六頁（フルカラー）  
二〇二三年二月刊行  
ISBN978-4-585-30722-8 C1000



書名	冊数
書物学22 禅寺の学問 相国寺・両足院の知の体系   編集部（編）	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価1,980円・本体1,800円

A5判並製・96頁

2023年2月刊行

ISBN978-4-585-30722-8 C1000

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

書物學 23

# 文化財をつなぐ

## ひと・もの・わざ

編集部編



日本には紙や絹を基底材とする多くの文化財が伝存している。環境や利活用に影響を受けやすい脆弱な文化財を守り、伝えていく……。この特筆すべき日本の文化は、どのように支えられてきたのか。そこには、文化財と真摯に対峙した「ひと」と、そして、試行錯誤のなかで磨きあげられた修理保存に関わる「もの」「わざ」があった。文化財を次世代へとつなぐために、研究者、装潢師の人びとは、何を考え、どのように行動してきたのか。一〇〇年を越えてコレクションを今に伝えてきた香雪美術館の修理事業を紐解くことで、文化財を考えるための新たな視点を提示する。

定価 一、九八〇円(税込)  
本体一、八〇〇円(+税)

B5判並製・二二〇頁(フルカラー)  
二〇二三年四月刊行  
ISBN978-4-585-30724-2 C1000

### 特集

〈序論〉香雪美術館の書画コレクションと作品修理事業 ● 大島幸代・林茂郎

#### 第一部 紙ものの修理の現場

「上置本三十六歌仙 猿丸大夫」にみる紙作品の修理 ● 郷司泰仁

「わざのこらむ」折れ伏せ ● 星賀子

「法華経絵巻」の修理から ● 大島幸代

「わざのこらむ」紙ものの作品の修理事情 ――「相剥ぎ」 ● 大山昭子

「わざのこらむ」タトウ箱 ● 坂田さとし

「大慧宗杲墨蹟 尺牘 才長老宛」の表具と添状 ● 大島幸代

「わざのこらむ」大慧宗杲墨蹟 尺牘 才長老宛」の修理から  
―― 旧補修へのアプローチ ● 川村洋史

岩佐又兵衛「堀江物語絵巻」の修理と旧表装 ● 林茂郎

「わざのこらむ」太巻添軸 ● 星賀子

装潢師がみた紙 ● 鈴木裕

補彰 ● 亀井亮子

#### 第二部 絹ものの修理の現場

「聖徳太子絵伝」の修理と補修絹 ● 郷司泰仁

「わざのこらむ」補修絹 ● 袴田尚志

鳥文斎栄之「美人夏姿図」の裏側(肌裏紙と裏彩色) ● 林茂郎

「わざのこらむ」旧肌裏紙を剥がすこと ● 伊加田剛史

絹織製作技術

―― 東京文化財研究所における調査を通じて ● 菊池理予

―― 絵絹は時代によって変化する

―― 「古代中世絵絹集成」刊行に寄せて ● 泉武夫

#### 第三部 装潢修理を支える理念

表装裂地取り合わせ考 ● 岡岩太郎

近現代表装技術小史 ―― 掛軸の裏打と裏打紙 ● 中野慎之

### 連載

書物の声を聞く書誌学入門「第21回」 ● 佐々木孝浩

松朋堂新取古書解題「第四回」 ● 佐藤道生

書籍はどう動いたのか

―― 近代書籍流通史料の世界「第五回」 ● 磯部敦

# 香雪美術館書画コレクションを支える装潢修理の世界

書名

書物学23

## 文化財をつなぐひと・もの・わざ

香雪美術館書画コレクションを支える装潢修理の世界

編集部編

冊数

定価 1,980円・本体1,800円

B5判並製・120頁

2023年4月刊行

ISBN978-4-585-30724-2 C1000

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

# 京都文化および動植物の

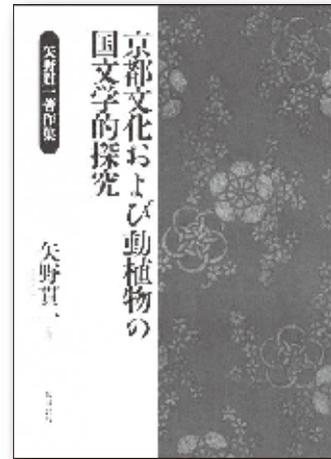
# 国文学的探究

# 矢野貫一著作集

矢野貫一 〈著〉

古典文学における中心地京都、  
そして、古典文学に現れる生き物を考えるための事典的著作

古代から近現代に及ぶ博覧強記の知識より京都各所の地名や伝承を考察、  
また、文学にとどまらない幅広い視角から古典文学における生き物たちを論じた、  
碩学・矢野貫一の珠玉の著作集。



定価 16,500円(税込)  
本体 15,000円  
A5判・上製カバー装・752頁  
ISBN 978-4-585-39011-4 C3095  
2022年11月刊行

## 「目次」

序…浜田啓介  
弁言…矢野貫一

### I 京都の国文学的検討

山河襟帯／大覚寺沿革／河原院／中川考／椰の宮由緒／釘拔地蔵尊／洛北洛西の古い道をたどる／平安住所録／東山三十六峰／地図以前の上御霊社／庭園の変容／龍安寺の虎の子渡し／大原雄喉寝そらごとの説／三宅八幡信仰記／島原 西風競わず／『朱雀遠目鏡』 解題／祇園町／祇園東新地／京の味ごよみ——食慾優先京風俗／懸想文売り／粟島堂の句碑／重衡のこと／洛陽八拾八ヶ所箋注／木屋町三条上る——佐久間象山のこと／霊山展墓／吉村寅太郎／療病院抄録／明石博高

### II 諸学連環国文辨説

海幸山幸／農耕社会の肉食／鳥目ら呼ぶ／坂鳥考／ほととぎすの虚実／和歌におけるちどり誌／みやこどり考／ゆりかもめ二十六年史／狹鷗異変／二条の院の家ばと／素菟放／蝸牛は廻う／頼棟記／あららぎの辨／あふひ放／冬葵に遡う／弓月が嶽に雲立ち渡る／俳諧と動植物／おくのほそ道の虚実／弥生末の七日の有明／石山の石は白いか／室津のむかし／東本願寺再建木遣歌聞書／慈齋九々の書私按／絵本大人遊 解題

### III 国語国文学芻論

うたがきの説／萬葉集卷十七以下における排列と生物歴／寛平四年忠臣歿す／朝顔斎院の墓の実否／夕顔の墓と朝顔の墓／光源氏二十一歳三十歳の年について／雲がくれ六帖の誤写について／柳多留の中の源氏物語／紫式部供養塔割記／つれづれ草の風土／昔話の喪失／神様の座——志賀直哉試論／技術と精神と——開高健試論／わが辞典に完成なし——あとがきに代えて

編集後記：奈倉洋子

索引

## 「執筆者紹介」

矢野貫一(やの・かんいち)

京都大学文学部卒業。京都市立堀川高等学校教諭、同定時制教諭、愛知県立女子短期大学教授兼愛知県立大学教授、京都外国語大学教授を歴任。二〇一八年逝去。  
著書『京都歴史案内』講談社、一九七四年、『雲がくれ六帖』和泉書院、一九八八年、『編著書』近代戦争文学事典(第1輯)、第14輯(和泉書院、一九九二)、『二〇二〇年』角川古語大辞典(共編著、角川書店、一九八二年)、一九九九年、『日本文学史辞典』(共編著、京都書房、一九八二年)、『日本文学説林』(共編著、和泉書院、一九八六年)など。

書名	部数
<p>京都文化および動植物の 国文学的探究 矢野貫一著作集 矢野貫一(著)</p>	<p>定価 16,500円(本体価格15,000円) A5判・上製カバー装・752頁 2022年11月刊行 ISBN978-4-585-39011-4 C3095</p>
ご送付先ご住所(通信欄)	

# 日本古典文学を世界にひらく

## EAJS(ヨーロッパ日本研究協会)で発表しよう

横溝博／クレメンツ・レベッカ／ノット・ジェフリー〈編〉

ヨーロッパにおける日本学は長い伝統を有しており、  
ハイレベルかつバラエティに富んだ視角は、世界規模での学的影响を与え続けている。  
そのヨーロッパ日本学の最先端を伝える研究集会が、  
1973年設立されたEAJS(ヨーロッパ日本研究協会)による国際会議である。  
本書では2021年に開催された同集会における日本古典文学を考えるための  
新視点を提示する充実のパネル4点を収載。  
日本古典文学を世界にひらいていく研究視角、方法論の  
パイロットケースを提示、EAJSの歩みや参加のためのhow toも示し、  
これからの日本研究・日本学の未来を構築するための手引きとなる貴重な一書。

定価 **4,950**円(税込)  
本体4,500円  
A5判・並製カバー装・368頁  
ISBN 978-4-585-39014-5 C1090  
2022年12月刊行

【もくじ】

はしがき

EAJS大会の開催都市一覧(1973~2021)

### 第一部 『源氏物語』のパトロン・藤原道長と紫式部の〈戦略〉

テーマコンセプト●横溝博

『源氏物語』の勝利——「総合」巻における主家賛美の方法と紫式部●横溝博  
「源氏」の物語という〈企て〉

——藤原道長と紫式部と「作り手」の人々●中西智子

藤原道長の影の元で——『紫式部日記』における摂関政治の方法と  
中宮サロンの営みの意義●ネグリ・カロリーナ

### 第二部 〈平安文学〉の歴史的構成——再発掘される「既成事実」

テーマコンセプト●ノット・ジェフリー

『枕草子』本文の受容と変容——諸本間の本文異同と「女」「女房」「乳母」を  
めぐる記述の差異から●山中悠希

中世源氏学の心理的転換——宗祇流の性格を求めて●ノット・ジェフリー  
「つくりものがたり」の位相●小川陽子

### 第三部 写本研究の未来——マテリアリティー、

テキストマイニング、データ基盤の構築

テーマコンセプト●海野圭介

書誌学的本文研究の未来

——「定家手沢本源氏物語」を事例として●佐々木孝浩

変体仮名を用いて写本の書写者と書写年代に迫る

——その方法と事例●齊藤鉄也

大規模画像蓄積からデータ駆動型の研究へ——EAJS 2021における特別企画  
The future possibilities of DH in Japanese Studiesの報告から●海野圭介

### 第四部 文化資本の所有者

——近世の武士社会における教養人の交換と使用について

テーマコンセプト●クレメンツ・レベッカ

豊臣秀吉と『源氏物語』●新美哲彦

柳沢吉保の文化資本としての女性たち●ローリー・ゲイ

異言語を話す——日本の大名や禅僧における唐話の意味、一六六一〜一七一  
一●クレメンツ・レベッカ

EAJS(ヨーロッパ日本研究協会)の過去と現在——過去三十年間の大会を振  
返りながら●フトソン・マイケル／緑川真知子

【参考資料】EAJS 2021 Abstracts

あとがき●横溝博

【編者紹介】

横溝博(よこみぞ・ひろし)

1971年生まれ。博士(文学)。東北大学大学院教授。専門は中古・中世物語文学。

クレメンツ・レベッカ(Rebekah CLEMENTS)

1979年生まれ。博士(ケンブリッジ大学)。ICREA Professor, Department of  
Translation, Interpreting and East Asian Studies, Autonomous University  
of Barcelona. 専門は日本史・日本文学史。

ノット・ジェフリー(Jeffrey KNOTT)

1980年生まれ。博士(スタンフォード大学)。国文学研究資料館助教。  
専門は室町後期~戦国期の古典学。

書名	部数
日本古典文学を世界にひらく EAJS(ヨーロッパ日本研究協会)で発表しよう 横溝博／クレメンツ・レベッカ／ノット・ジェフリー〈編〉	定価4,950円(本体価格4,500円) A5判・並製カバー装・368頁 2022年12月刊行 ISBN 978-4-585-39014-5 C1090
ご送付先ご住所(通信欄)	部

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025